令和２年度学校評価報告

令和３年３月２６日

１　本年度の重点目標

（１）基本的生活習慣、規範意識を定着させ、自らを律し、他者と協働できる力の育成に努める。
（２）主体的な進路選択と実現が果たせるよう、主体的に学び、問題の発見・解決に資する力の育成に努める。
（３）生命を尊ぶ態度、健康・安全・福祉に係る意識を高揚し、健やかな心身の育成に努める。
（４）教職員間で業務の在り方、見直しにを話し合う機会を設け、校内業務の適正化を図ると共に、「育成を目指す資質・能力」がどれだけ身に付いたかを検証し、教育活動の改善に努める。

２　自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・共通した指導方針を全教員で実践できており、落ち着いた授業が展開されている。 ・授業評価及び授業改善は研修会を行い個々人が工夫・改善を進めているが、教員間での取り組みに二極化が見られる。 ・『主体的で対話的な深い学び』を意識した授業に取り組む教科が増え、評価平均も上がった。	・昨年よりもさらに落ち着いた環境の中で学習に取り組めるようになってきていると評価している。 ・授業改善は、是非若い世代の教員が牽引して取り組んでいただきたい。 ・生徒の特性をつかみながら、今後も学力向上に努めてもらいたい。
改善方策	・生徒も全般的に落ち着いているが、授業規律の徹底に向けて教職員が統一した指導体制のもと、今後も一丸となって取り組む。また、授業改善等については若い年齢層が中心となり、授業公開等を充実させ組織的に改善を図る。	
生徒指導	・各担任が保護者と連絡を頻繁に取り合うことで、生徒情報を共有しながら指導に当たった。 ・部活動加入率の低さから、本来期待される人間性の形成が困難な場面が見られる。 ・コロナ禍の影響で学校行事、特にボランティア活動が規模縮小となり、評価が下がった。	・学校の評判が良くなってきた。校外の生徒の様子も落ち着いてきたと認識している。 ・高校生にアルバイトを依存する地域でもあるため部活動加入率を上げるのは難しい。 ・今年度は致し方ない。来年度（コロナ収束後）へ向け、期待している。
改善方策	・今年度はコロナ禍の中、学校行事について創意・工夫を凝らし、生徒の達成感や成就感を得られた。次年度も臨機応変に対応できる学校体制で臨む。 ・特に地域中学校と本校の生徒指導部間・養護教諭間での情報共有に力を入れ、生徒一人一人に合った指導及び健康管理を行っていく。	
進路指導	・今年度大幅に見直し・改善を計画していたキャリア教育について、コロナ禍によって年度途中での計画の大幅な見直しを迫られ、従来通りの形となってしまった。 ・関係機関と綿密に連携しながら進路実現へ向けて取り組んだ。地域企業の配慮もありコロナ禍の影響は最小限で抑えられた。	・コロナ禍のこの状況では仕方がない。次年度以降に期待する・ ・生徒一人一人の多様な進路希望に対して、全教職員が協力して指導に当たっている。引き続き生徒の希望する進路実現に尽力してもらいたい。
改善方策	・生徒一人一人が自分の人生設計を意識しながら主体的に進路選択できるようにするため、関係諸機関との連携をさらに強固なものとしていく。また、より実践的なキャリア教育プランを実践する。	
公表方法	・評価結果をまとめて、教職員に対して会議にて公表説明した。 ・外部には本校ホームページ上に掲載した。	